

1. 実況上の着目点

- ① 北日本はサハリン付近の低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、風が強く、波がやや高い所がある。また、高気圧縁辺の下層暖湿気が流入しており、札幌の21時高層観測850hPa θ_e は343Kを観測している。
- ② 南西諸島～西日本～東日本は、500hPa 5880m以上の亜熱帯高気圧に対応する九州の東に中心を持つ高気圧に覆われている。
- ③ 日本の南には300hPaに -30°C 以下の寒気を伴うUCL(寒冷渦)があって南西進している。
- ④ 台風第3号は小笠原諸島の東を北上している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 北日本には、5日にかけて高気圧縁辺の850hPa θ_e 345K前後の下層暖湿気が流入する。また、500hPa 5760～5820mのトラフが4日朝に沿海州付近に進み、5日にかけて北日本～東日本を深まりながら通過する。このトラフは300hPaに -30°C 以下の寒気を伴っている。北日本では下層暖湿気や上空寒気の影響で5日にかけて大気の状態が非常に不安定となる所があり、トラフ接近・通過に伴い対流雲が特に発達する。東日本～西日本では下層に流入している暖湿気や日中の気温上昇、上空寒気の影響も加わり、大気の状態が不安定となる。北日本～西日本では、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。北日本～東日本では5日にかけて、西日本では4日は、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。大気的不安定な状態は6日も続くため、北日本～西日本では6日にかけて落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北日本では4日は、気圧の傾きの大きい状態が続くため、強い風が吹き、波がやや高い所がある。強風に注意。
- ② 1項②の高気圧は、6日にかけて九州～南西諸島付近にほとんど停滞する。南西諸島～東日本は6日にかけて高気圧に緩やかに覆われ、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。また北日本も気温が上昇し、真夏日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意(熱中症警戒アラート参照)。
- ③ 1項③のUCL(寒冷渦)は、5日にかけて南西諸島を通過する。南西諸島では高気圧縁辺の下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる。南西諸島では6日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。なお、6日は熱帯低気圧の動向に留意。
- ④ 台風第3号は、6日にかけて日本の東を北上する。小笠原諸島から次第に遠ざかり影響は弱まる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：北海道・東北・関東甲信 100mm。

② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

③ 高潮(明日まで)：西日本～東日本の日本海側では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。